

口は健康のもと Vol.202

お孫さんのお口の事故を防ぐために

子どもの歯磨きは健口作りの第一歩です。ですが、お孫さんが一人で歯ブラシを口にくわえたまま立ったり歩いたりしていることはありませんか？実は近年、歯ブラシによるお口の怪我が増えています。少しでも歯ブラシに慣れてくれればと、歯磨きの練習のつもりでくわえさせていて転倒したり、歯ブラシをくわえたまま歩いてぶつかったりして、口の中を切ってしまうのです。中には喉の奥に歯ブラシが折れて残り、手術になることもあります。局所麻酔を使用して、外来で傷を縫い合わせようとしても、小さなお子さんには負担が大きく手術も困難な場合があります。そこで子どもを守るために、全身麻酔をかけて口の奥を縫い合わせることもあります。歯ブラシには細菌も残っており、『口の中の傷は治りやすい』とはいっても注意が必要です。中にはおもちゃの長いボールペンを刺してしまった子どももいます。小さな子どもは何でも口の中に入れて遊ぶことがあります。歯ブラシやペン等の長いものを持ったら、「一人にしない」「歩かせない」ようにご注意頂ければありがたいです。



奥羽大学歯学部附属病院

小児歯科 教授 島村 和宏